NIE実践報告

1．タイトル：☆新聞クイズで新聞に親しむ

2．学校名

群馬県立尾瀬高等学校

3．実践者名（代表者名）

梶原　利雄

4．学年

第1学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

学び入門(普通科学校設定科目)　17人

6．単元（本時の学習課題）名

新聞に親しむ

7．目標(狙い)

日常的に新聞を読む習慣のない生徒が、新聞記事に関連したクイズ形式で楽しみながら新聞に親しみ、新聞に興味関心を持つ。

8．評価の視点

積極的に新聞を読み、グループで協力して解答することができたか。新聞を読むことに興味関心を持つことができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

後期(35時間)の導入としての4時間(4回)

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

17名の生徒を4グループに分け、グループごとに新聞クイズに答え正解数を競うことにした。同一の新聞(新聞社・日付が同じもの)を4紙用意し1グループに1紙配った。新聞は、授業日の前1週間以内のものを使い、クイズは担当教師が作成した。問題作成に際しては、見出しやリードのみを読んだだけでは答えがわからないようにし、記事全文を読ませるように留意した。問題数は15問程度とした。同じグループの4、5人の生徒が別々の記事を同時に読めるように問題の元となった記事は、別々のページからの出題となるように配慮した。この授業は4回行ったが、初めは高校生にとって身近に感じる内容の記事や地域の記事など生徒が関心を持ちやすい記事を選び、2回目、3回目と回を重ねるごとに内容の難しい記事を混ぜたり、内容を深く読み取る必要がある難しい問題も入れるようにした。このように、同じ形式で授業を行いながらも内容的にレベルアップしていくことで生徒に飽きさせないよう留意した。また、記事の内容の解説を行うことで普通教科の授業との関連性を意識させたり、一般常識や教養を身につけるために新聞が有効であることに気付かせ、日常的に新聞を読むことの動機づけを図るように留意した。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

グループ対抗としたことで、全員が積極的に取り組むことができた。生徒の感想は、「今まで新聞の記事は、政治や外国の記事ばかりで難しく自分には関係ないものだと思っていたが、読んでみると意外と身近な話題や興味のある記事もあり少し読んでみようかなと思った。」という感想が多かった。

12．成果と課題

授業でクイズに答えるというような動機づけがあると生徒も抵抗なく新聞を読むことができたが、そのことが新聞に興味を持ち日常的に新聞を読むという行動につながった生徒は少なかった。(17名中2、3名)

何のために新聞を読むのか、新聞を読むとどのようなメリットがあるのかを生徒が実感できるような工夫が必要であると感じた。